

胃切除術後の退院指導の一考察

南5階病棟 発表者 加藤 祐美子・種山 一美・由上 恵子

発表順序

- I はじめに
- II 症例紹介
- III 目標
- IV 研究経過
- V 評価および考察
- VI おわりに

I はじめに

当科において胃切除術を受けた14名の患者は15%を占めています。

退院が決まる頃になると、患者は退院後の生活について様々な不安を訴えますが、特に食事に関することが切実な問題となってきます。それに対して適切な退院指導が今まで不十分であったように思い、今回新たにパンフレットを作製し、少しでも患者の不安の軽減に役立てばと取り組んでみました。

II 症例紹介

(S 52年9月～S 53年5月)

A	♀	71才	胃潰瘍	胃全摘出術
B	♀	62才	胃 癌	胃全摘出術
C	♂	57才	胃 癌	胃部分切除術(BⅡ法)ビルロート
D	♀	51才	胃癌(非排菌性結核合併)	胃全摘出術
E	♀	62才	胃 癌	胃部分切除術(BⅠ法)
F	♂	60才	胃 癌	胃部分切除術(BⅡ法)
G	♀	65才	胃 癌	胃部分切除術(BⅡ法)
H	♂	57才	胃 癌	胃全摘出術

(S 52年1月～8月)

I	♂	52才	胃 癌	胃部分切除術(BⅡ法)
J	♂	59才	胃 癌	胃全摘出術

K	♂	68才	胃 癌	胃部分切除術(BⅠ法)
L	♀	66才	胃 癌	胃全摘出術
M	♂	57才	胃 癌	胃部分切除術(BⅠ法)
N	♀	43才	胃 癌	胃全摘出術

Ⅲ 目標

胃切除術に対する認識を高め、より良い退院指導を行なう。

Ⅳ 研究経過

(1) 手術前後にアンケートを配布・集計

アンケートは、手術前のものは手術日が決定次第、また手術後のものは退院が決定次第配布しました。

A 術前アンケート結果：資料Ⅱ1を参照

- ① 手術に対する不安では
 - 先生にまかせてあるから安心している。
 - 手術は恐い。
 - 手術のあとの痛み。
- ② 病気に対する不安では
 - 手術して早く治りたい。
 - 早く苦痛からのがれたい。
 - 治るまでどの位、期間がかかるか。
- ③ 病識についてはこちら側が不十分であったので反省しています。

B 術後アンケート結果：資料Ⅱ2を参照

- ① 退院後心配なことはどんなことですか。
 - 食事が摂取できるかどうか。
 - 一日も早く軽い仕事がしたい。
 - 生活に希望が持てなくなった。
- ② 病気についてどのように考えるようになりましたか。
 - 身体を大切にしなければいけない。
 - 自分の身体の管理に気をつけ、二度とこのようなことのないよう努めたい。
 - どんな軽い病気でも早く診察してもらおう。

以上のアンケートから、こわさ、あきらめ、受け入れ、不安等、心理的なものがうかがえました。

(2) 退院指導パンフレット作製

手術前後のアンケートの結果と、今まで各々が独自で行ってきた退院指導をまとめ、それに検討を加えて作製してみました。

(3) 実施

できあがった退院指導パンフレットに基づき、実施してみました。

その際、患者ひとりひとりの個人的背景や退院時の病状に合わせて進めていきました。

(4) 退院3ヶ月後にアンケート配布・集計

この際、S52年1月から8月に退院した患者にもアンケートを配布し、参考としました。

(8通配布→6通回答あり)：資料№3参照

アンケート結果

① 食事について

- 分食については胃全摘出術を受けたのにもかかわらず、続けられない人が多かった。
- 分食が続けられない理由として、間食で補なったり、満腹感を感じてしまうがあった。
- 食事の際、気をつけていることは、
 - ゆっくり食べる
 - 固いものはさける
 - 味付けに気をつける
 - 線維のものはさける
- 食べて具合が悪かったものは
 - 油もの・水分の少ない物・甘い物
- 食事内容や献立で工夫していることは
 - 栄養のバランスがとれるようにする
 - 脂肪分をさける
 - 高カロリーで消化のよいものをとる

② 復職について

- 軽作業についた人が多く、食事について困ったことは述べられていません。若干の疲労を訴えています。
- 家庭にいる人は自分の身のまわりのことをしている人が多かった。

③ 退院後、困ったことについて

- 食事の量がとれない
- 体力がつかない
- 体重が増えない
- つかえ感がある
- 食後の腹痛がある
- 便秘になりがち

(5) 問題点の抽出(追跡アンケートより)

○ 食事に関する不安が圧倒的に多く、不安の軽減は家族の協力が影響されることを感じた。

(6) 学習会にて問題点・退院指導パンフレットの検討

- 個別性をとり入れた退院指導をするように徹底する。
- 家族を含めた退院指導を行なう。
- パンフレット内容の簡略化
- 文体の統一
- なじみ易く読み易いようにカット挿入

(7) 退院指導パンフレットの再作製

V 評価および考察

退院時患者の大きな不安は退院後の食生活についてです。そこで退院指導パンフレットでも、食事に関する項目を中心に取り上げました。胃切除後の食事指導と一概に言っても、疾病自体および術式、患者の全身状態、年齢等により、食事摂取方法、内容等異なります。

良性潰瘍のように手術をすれば軽快するという疾患であれば、指導したことも役立つでしょうが、悪性腫瘍の場合、退院後一時期軽快していても、その後合併症をおこしたり、再発し、再入院するケースも多くありました。

退院後のアンケートにおいて、特に問題のあげられていなかった患者でも実際は苦痛があり、再入院してきて初めて、その苦痛を訴えられ、十分な把握がなされていなかったことを反省します。

今回の退院指導パンフレットは、あくまでも基本的なもののため、指導時各々の患者の個別性（家庭にいる人、復職する人）を考慮して実際の生活指導を行なうという工夫をしてみました。

患者は家族の一員となるのですから、退院指導も患者ひとりに行なうのではなく、退院後食事を作る人、あるいは世話をしてくれる人にも参加していただき、効果をあげなければならないと思います。

入院中にアンケートをとりましたが、それを作製するにあたり、「病気は治るのだろうか」「どんな手術をするのだろうか」「手術は成功するのだろうか」という不安が返ってくるのではないかと予測を立てて調査にあたりましたが「先生や看護婦にすべておまかせします。」という曖昧な表現ばかりで、その裏にある本当の不安がかくされています。又、〇×式のアンケートでは、はっきり把握できないのではないかとということで、記述式のアンケートを作製しましたが、具体性に欠けたり、答えにくかったりして、時と場所の選び方も考えさせられました。

一方では、アンケート配布前の十分な信頼関係ができていなかったために、不安をすべて表現してもらうには至りませんでした。

退院指導をしていく上での疑問を学習会および臨床講義において皆で討論して疾病への理解を深め、スタッフ一同の看護の向上に役立つようつとめなければと思います。

Ⅶ おわりに

良性・悪性を含めての退院指導の為、作った退院指導パンフレットが、退院後変化していく患者の生活に合わないところがあり、不十分さを反省しました。新たに作製した退院指導をもとに多くの意見をとり入れ、いっそうよいものにしていきたいと思ひます。

なお、参考文献は省略させていただきます。

術前アンケート 資料№1

- 今度手術することになり、貴方は病気のことにひいて先生からどのように聞いていますか。
- 病気について何が一番心配ですか。
- 手術に対して何が心配ですか。

術後アンケート 資料№2

- 退院後家に帰って何か心配なことがありましたか。
- 退院後どのような生活を送りたいと思ひますか。
- 手術をしてから自分の病気についてどのように考えるようになりましたか。(手術前と比較して)

退院後追跡アンケート 資料№3

退院されてからいかがお過ごしでしょうか。家におられる方、復職された方、その後の様子をうかがいたくお手紙さしあげます。食事について参考にいたしたく以下の項目にお答え頂きたいと思ひます。

① 食事について

- 分食は現在も続けていますか。
- 退院後いつころまで分食しましたか。
- 分食を続けられなかった方はなぜですか。
- 退院後、あなたの食生活はどのように変わりましたか。(例…1ヶ月目、かゆ 2ヶ月目、常食)
- 食事は誰が作っていますか。
- 家族の食事とあなたの食事は別ですか。
- 一緒の場合はどんな注意を払って食事をしていますか。
- 食べて具合の悪かったものはありますか。
- 食事内容や献立で工夫されていることはありますか。

② 排泄(便通1日 回)

便通について工夫していることはありますか。その他便秘や下痢についてどのように気をつけていますか。

- ③ 清潔（入浴週に 回）
睡眠（ 時間）
運動（家事、散歩、その他)
- ④ 復職された方
- あなたはいつ頃復職なさいましたか。
 - ・手術後何ヶ月目
 - ・その時の体の調子は？（例、体重が増えてきた時、体力に自信がついた時）
 - 現在の仕事内容を簡単に
 - 復職してから何か困ったことはありましたか。
 - ・食事について（例、分食のこと、間食のことなど）
 - ・疲労について
- ⑤ 家庭におられる方
- あなたは現在どんな生活を送っていますか。
（例、ねている生活が多い、自分のことぐらい自分でしている、家族の世話をしているなど）
- ⑥ 何か困ったことがあったら書いて下さい。

御協力ありがとうございました。

これからもおからだを大切に元気でお暮らし下さいますよう。又、お困りの時はいつでも御相談下さいませ。

第一外科看護婦一同